

平成29年度 第3回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成29年9月28日（金） 午後2時から4時30分まで
- 2 会 場 中央図書館 2階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：12名 傍聴人：なし
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長
サービス担当係長、資料担当係長、推進担当係長、仲町図書館長 計7名
- 4 配布資料 資料は省略させていただきます。

5 議事等

(1) 報告事項

① 図書館の運営状況について

- ・図書館行事の報告と今後の予定について（資料No.1）

（これまでの報告）

○7月23日 夏休み家族一日図書館員を実施。参加は9家族、24人であった。

○7月26日・8月2日の2日間、仲町で夏休み宿題応援（調べ方教室）を実施

○8月8日～13日まで、インターンシップで首都大学東京の学生を2名受入れ

○よるのおはなし会を全8館で開催。津田7/19、大沼7/25、花小金井8/1、喜平8/2、小川西町8/8、仲町8/23、中央8/24、上宿8/30。保護者と一緒に参加できる行事であり、どれも盛況で、中でも中央と喜平は100名を超える参加があった。

○8月23日～30日、高校生WEEKとして、バックヤードツアー、仕事体験講座、高校生専用の学習スペースの提供、図書の展示等さまざまなイベントを実施した。

（今後の予定）

○10月11日・18日の2日間、児童文学紀行講座「絵本で旅するイタリア」を仲町図書館で開催する予定

○10月14日 講演会「図書館ってどんなところ？」を中央図書館で実施予定

○10月19日 図書館親子スペシャルデーを小川西町で開催する予定

○10月21日 全館でブックリサイクルを実施する予定

○11月4日 なかまちテラスのイルミネーション点灯式

○11月9日 第4回図書館協議会を予定

② 市議会9月定例会について

図書館に関する一般質問は1件。

宮寺賢一議員から「子どもの読書活動の推進と学校図書館の整備充実等について」の質問があった。八戸市はマイブック推進事業の展開、乳児のブックスタート事業、3歳児のキッズクーポン事業を通じて、子どもが本に親しむ環境づくりに取り組んでいる。このような施策を小平市でもできないかという質問であった。

この質問に対して、「第3次小平市子ども読書推進計画は、家庭・学校・地域・図書館等が連携しながら、子どもが自主的に読書活動を進めることができる環境の整備を総合的、計画的に推進するもので、子どもの成長過程に合わせて、様々な取組を行なっている。また、本に親しむ環境づくりとして、乳幼児へは、絵本のへややおはなし会の開催と参加できる機会の拡充、小・中学生へは、学校との連携や図書館行事による働きかけ等に取り組んでいる。さらに、今後は絵本の楽しさを体験し、絵本を身近なものと感じることから、小・中学生の読書活動につなげること、及び読み聞かせの大切さを保護者の方に知ってもらうことを目的として、3～4か月児健康診査時に、読み聞かせを行った後に、絵本を手渡すブックスタート事業に取り組んでいく。本年度は、読み聞かせボランティアの募集、育成などの準備をし、来年度からの実施を予定しております。」と答弁をした。

③ 第3次小平市子ども読書活動推進計画の進捗状況について（資料No.2）

新たな取組みについて報告する。

まずは、小さい子どもを持つ親が図書館で一緒に過ごす場を提供するために、おはなし室を開放し、おすすめ絵本を備える試みを実施した。また、平日にはなかなか来館できない親のために、親子で参加できるおはなし会を土日・祝日等に設定して開催した。

小・中・高校生への新たな取組としては、調べ学習や夏休み宿題応援などの学習支援を目的に、レファレンスに特化した「子ども専用カウンター」を設置したり、情報リテラシー教育を目的に、「高校生のバックヤード体験講座」を開催し、参考資料の活用による問題解決を行う体験を取り入れた。

④ オリンピック・パラリンピックのパスファインダーの作成について

オリンピック・パラリンピックのことについての調べ学習に活用してもらうために、パスファインダーを作成したので、今後、広く周知してレファレンスに活用していきたい。

（報告事項に関しての質疑・応答）

委員：議会で、八戸市のブッククーポンの話が出ていた。小平市もブックスタートを始めるが、本が読めない子どもに渡すよりも、小学生くらいの子どもの自分に選ばせるというブッククーポンの方が筋がいい気がするが、他の自治体でもやっているのか。

事務局：実施している団体は少ない。八戸市では市長の公約として実施している。ブックスタート事業は、本の配布そのものではなく、本の読み聞かせにどのような効果があるかを、

保護者に知ってもらうことが大切と考えている。3～4 か月児健診の受診率はおよそ 97% 近い。これに対して図書館の利用はまだ低いのが現状なので、図書館のことを知ってもらい、新規の利用につなげていくことも目的の一つである。

会 長：乳幼児に多くの絵本をふれさせるためには、まず親に図書館に目を向けてもらうことが大切だと思う。図書館にはたくさん絵本があるわけだから、図書館の利用につなげることは多くのメリットがあると思う。

委 員：八戸市は図書館の歴史が深く、江戸時代にまでさかのぼる。八戸市の市民は昔から図書館への関心が高く、このような先進的な取り組みを実施していると思う。

事務局：ブッククーポンについて補足説明すると、乳幼児や小学生に配布し、普通の町の書店で使えるとしている。ちなみに小平市は町の書店は少なくなっており、大型チェーン店だけが生き残っている現状がある。

会 長：小平市では、3～4 か月児健診のときの絵本の紹介以外で子どもにどのようなアプローチをしているか。

事務局：毎年小学生、中学生には夏休みのおすすめ本のリストを配布している。また、小学 1 年生には、夏休み前に図書館の利用案内を配布して、利用カードの登録を促している。

委 員：子どもが言葉に興味を持ち始めた時期に、本にふれる機会をつくるのはとても大切だと思う。

事務局：3～4 か月児健診のときに絵本のへやを周知しており、絵本のへやに来てもらいながら、おはなし会へとつなげていく。

委 員：図書館見学をした親子に感想を聞いたことがあるが、図書館でのおはなし会や絵本のへやのことを全く知らないと答えた親がいた。図書館からの情報提供やアピールをもっと充実させることが必要ではないか。

事務局：図書館は市内の公共施設の中では一番利用率が高くなっている。しかし、小・中・高でみると、中学から高校に上がるにつれて読書離れが顕著になっている傾向がある。図書館を利用したことがある人は継続して利用する傾向はある。図書館に全く来ない人をいかに取り込んでいくかが大事であるが、難しい面もある。

委 員：学校図書館にはないメリットが公共図書館に行くのとあるとよいのではないか。小・中学校でも読書活動をしているが、子どもたちは決して本が嫌いなわけではない。

事務局：電子図書館が今後進んでいくと何か方策が見出せるかもしれない。

委 員：以前、学校の卒業記念で朗読をしてもらったことがあったが、保護者からも非常に好評だった。子どもたちも記念になったと思う。

会 長：小平市は幸いなことに近年学校図書館が非常に充実してきているので、これからも図書館との情報交換、連携をしていくことが大切だと思う。

委 員：市の行事が同じ日時で重なってしまうことがある。どちらの行事も行きたかったという市民もおり、非常にもったいないと感じるので、他部局との調整が必要なのではないか。

事務局：講座の日時については、講師の都合が最優先になることはあるが、調整は必要と思う。

委員：おはなし学習会は興味があるので、参加者の募集は広く行ってほしい。

事務局：春先に読み聞かせ実践講座を行っており、そちらの方は、子どもの有無にかかわらず、図書館ボランティアとして子どもの前で読み聞かせをする機会がある人に参加してもらいたいと考えている。

委員：図書館のホームページにあるシステム障害の告知については、いつ発生して、いつ解消したかを明確に記載したほうがよい。

事務局：告知の方法については改善する。

(2) 協議事項 なし

(3) その他 なし